事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画) 平成29年 2月28日更新

								7	ニフェスト		構新	_ 集中改	∀苗	
	- 事-養	务事業名	有害!	鳥獸 駆	除事業				連	□課題		プラント	マー 関連	
総	合	政 策	3	働く	人々が輝き続	けるまちづ	くり	所屬	禹部 事業部	ß	課長名	森山	邦彦	
計		施策	11	農業の	の振興			所属		•	担当者名	4 井芹	和幸	
体:	糸	施策の柱	31		基盤の確保			所属	属班 農政班	Ħ	(内線)	1175	2200000000000000	
	予	算科目	会計	款	<u>項 目</u> 2 1	_事業連番 10261	根拠 法令					度評価結界 医先度評価網		9 6
		nn / / /	一般	6	l				年度のみ	☑単年度繰込			〒木 <u> </u>	\sim
終	: ۱	開始年度	□ 2	27年度	で終了	□ 27年度から	⊃開始 事事	能期間 ^{□ 単 ・}		定複数年度	(~ '	年度	
*	事系	务事業の概	要 (PLA	N)									
			駆除	隊への	業務委託によ	る有害鳥獣	駆除事業の実	施。合併後	、平成18年度	から合志地図	区、西合志地	区の駆除隊	薬に委託	をし
			てい	る。環	境の変化によ	い繁殖能力:	が高い群れか	いるものと	思われ、駆除	後も被害報告	舌が出てきて	いる。		
I	事道	美の内容】												
		· · · · · · · ·												
			EC DA	++= ==	/		- '= 42 FC P/	いわみそうか	++11、市功					
	une →		题/示1		付後、該当地	退場の駆除隊・	个	和古安託科.	又払い争務					
L	業務	务の流れ 】												
			т	T 11/15	/D. 76 # #									
ľΞ	Eな	予算費目】	職貝-	于当寺	、役務費、委	き計料								
			被害の	の増加	に伴い、駆除	(要望は高ま	っている。							
I	意見	見や要望】												
1				•	PLAN)									
		务事業の目的			(00 tr th 1 - 4-		EL) (DO)		・拡充区分	51377	1.72.2374	43 767 1315		
					((27年度に行 ス・イノシシ		助 <i>)</i> (DO)		度計画(次年月 島獣駆除委託		い。日本は任意	IJ) (PLAN)		
Н	п /л:	100% 100 平 不	X 11	())))	X 1////	/		駆除体	太頼受付後、		図除隊へ連絡	、駆除報告	、委託	料支
								払い事	▶務					
								: 						
					量を表す指標	票)			の主な増減の		, 1 22			
\Rightarrow	7	有害鳥獣駆	际促制	●石延1	日剱		i 	日剱 時间外	卜勤務手当の	単価瑁による	0 멱			
(D) :	コ 対象	3(誰 何か	対象に	1 でし	いるのか)*	人や自然資源	5年	(D) \$11.5	象指標(対象の	り大きさを表	· ナ 指煙)		(È	単位)
農:		STUMS ITS CO.	^1 ≥0C (C		D >> / / .	/	18.77	。 、ア	農家数	22355555	_7_1 BTM7		F	
								17/7	 					
					対象をどう変				R指標(意図の					単位)
有·	吉馬	獣から受け	る農化	F物被	害を減少し、	生産量を増や	೧೯.] → 7 1	被害額の対	前年比 現年		茂 額		6
*(3) ધ) 里指搏設先	の理目	日レ28	年度目標値影	党定の根拠		i_!2-				総トーク	タルコス	L.
有	害鳥	獣の減少に	より島	と 作物の	の生産量増加	につながるか			質の対前年比	現年度額/	/前年度額」		本計画	•
اع	没定	こした。目標	値は前	前年度。	より被害を減	らすために8	3 0%とした	0				?	年度	0
(0)	∕ 2 +	旨標・総事業	#4.											$\overline{}$
(4)		日保・松尹未 住移	質	単位	25年度 実績(決算)	26年度 実績(決算)	27年度	27年度	28年度	29年度 予定	30年度 見込	31年度 見込		/
		m D	P	日数	天順 (次昇)	天順 (次昇) 175	目標(当初予算) 130	夫順 (広昇) 159	日標(当例才昇)	130	元心 130	九丛	0	
	1	活動指標	7			1,3								
	<i>⊙</i>			戸	758	758	630	758	630	630	630		0	
	(2)	対象指標	7											
	(3)	成果指標	ア	%	30	50	80	400	80	80	80		0	
	٠		1											
		国庫支 財都道府県		千円 千円	174	219	219	275	275	173	173			
	事				1/4	219	219	2/0	210	1/3	1/3		/	
	25555555	内 その		千円 千円	14	10	14	11	10	14	14		/	
投	業			千円										
		一般則		千円	295	326	377	298	326	463	463			
入	費	(A) 事業		千円	483	555	610	584	611	650	650		0	
		(A) のうち‡	1定経費		17	15	28	16	29	68	68		0	
量		(A)のうち時間		千円	17	15	28	16	29	68	68		0	
		正規職員従		人	8	8	7	8	7	7	7	ļ	0 /	
	件費	延べ業務		時間	433	430	430	450	430	430	430		0 /	
		(B) 人件費 タルコスト(A		千円	1, 725 2, 208	1, 713 2, 268	1, 713 2, 323	1, 670 2, 254	1, 713 2, 324	1, 713 2, 363	1, 713 2, 363		0	
	110000	NIN - V LA	v ⊏ (D)	e 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	۷, ۷۷۵	۷, ۷۰۵	۷, ۵۷۵	L, 204	۷, ۵۷4	۷, ۵۵۵	۷, ۵۵۵		∨ II	

事務事業名	有害鳥獣駆除事業	所属部 事業部	所属課 農政課	

2	評価の部(CHECK)	
	*原則は27年度の事後評価、	ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

	・ががいる。「人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	U 及外 及 手 木 は 2 1 及 入順 と 間 る た く・2 型 1 日 画
目標達成	①27年度目標達成度評価	図達成した □達成しなかった ⇒【原因 ¬ 数字の達成はしているが、農業共済にあげられた数字が主になっており、26年度の被害額には例年大部分を占めるカラスの被害報告が含まれていないかった。さらに、26年度はイノシシによる食害があった。
度評	②28年度目標達成見込み	図目標達成見込みあり⇒【理由 □ □目標達成は厳しい ⇒【理由と対策 □ 適当な場所と時期を選んで例年どおり春・秋のカラスの鉄砲による駆除を考えている。
	③成果の向上余地	図向上余地がある ⇒【理由 □ □向上余地がない ⇒ 【理由 □ 『それぞれの農地における防除対策の研究をすすめ、農地側からの対策を平行して実施することで成果の向上を図った。また、住民からの情報をもとにピンポイントで駆除を行った。"
有効性評価	④類似事業との統廃合・連携の可能性	□他に手段がある □(具体的な手段、事務事業) 図他に手段がない ⇒ 【理由 □ □統廃合・連携ができる ⇒ 【理由 □ □統廃合・連携ができない ⇒ 【理由 □ 類似事業がない
効率性	⑤事業費の削減余地	□削減余地がある ⇒ 【理由 ¬ 図削減余地がない ⇒ 【理由 ¬ 市の委託事業として実施しているが、委託料の実態は玉代にもならないくらいで、出動はボランティアとしているのが現状であり、削減をするのは難しい。
評	⑥人件費(延べ業務時間)の削減 余地	□削減余地がある ⇒【理由 ¬
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余 地	□見直し余地がある ⇒ 【理由 ¬
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	□見直し余地がある ⇒ 【理由 ¬

3 評価結果の総括 (CHECK)

有害鳥獣による被害報告を数年スパンで見ると増加傾向にあり、それに伴い駆除隊への捕獲依頼も増加傾向にある。また、いのしし、カラスだけでなく、サル出現の報告もあった。

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 □廃止 □休止 □目的再設定 □事業統廃合・連携 □事業のやり方改善(有効性改善		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)				
□事業のやり方改善(効率性改善□事業のやり方改善(公平性改善□現状維持(従来通りで特に改革改善をしない	成果低下	コスト 削減 維持	増加			